

第4回南九州水産海洋研究集会

「ブリ資源について考える～資源研究と漁業の視点から～」

共催：一般社団法人水産海洋学会，鹿児島県水産技術開発センター，宮崎県水産試験場，
水産研究・教育機構中央水産研究所

後援：鹿児島県かん水養魚協会，鹿児島県モジャコ生産漁協協議会，鹿児島県定置漁業者・漁協協
議会

日時：2016年10月25日（火） 13：15～17：45

場所：かごしま県民交流センター（鹿児島市山下町）

コンパネーター：宍道弘敏（鹿児島水技セ），亘 真吾（中央水研），辻 俊宏（石川水総セ），
久野正博（三重水研），渡慶次 力（宮崎水試）

挨拶：和田時夫（一般社団法人水産海洋学会長） 13：15～13：20

佐々木謙介（鹿児島水技セ） 13：20～13：25

趣旨説明：宍道弘敏（鹿児島水技セ） 13：25～13：30

話題提供

1. 基調講演

座長：辻 俊宏（石川水総セ），久野正博（三重水研）

（1）ブリの生態と近年の資源状況 亘 真吾（中央水研） 13：30～13：55

（2）ブリの資源変動と環境変動の関係 宍道弘敏（鹿児島水技セ） 13：55～14：20

（3）“単独漁協日本一”東町漁協におけるブリ養殖業戦略
～近年の天然ブリ資源変動を踏まえて～ 松尾 斉（東町漁協） 14：20～14：45
（休憩） 14：45～15：00

2. 話題提供

座長：亘 真吾（中央水研）

（1）ブリの移動回遊生態（日本海側） 小塚 晃（富山水研） 15：00～15：20

（2）ブリの移動回遊生態（太平洋側） 久野正博（三重水研）・阪地英男（瀬戸内水研）
15：20～15：40

（3）日本海側へのモジャコの輸送 辻 俊宏（石川水総セ） 15：40～16：00

（4）太平洋側へのモジャコの輸送 水野紫津葉・小松輝久（東大大海研），
宍道弘敏（鹿児島水技セ） 16：00～16：20
（休憩） 16：20～16：35

3. 漁業者の目線

座長：宍道弘敏（鹿児島水技セ）

（1）モジャコ漁業者からみた近年のブリ資源 長田昭二郎（南種子町漁協） 16：35～16：55

（2）定置網漁業者からみた近年のブリ資源 小村昌治（甌島漁協） 16：55～17：15

4. 総合討論

座長：宍道弘敏（鹿児島水技セ），亘 真吾（中央水研），辻 俊宏（石川水総セ），

久野正博（三重水研），渡慶次 力（宮崎水試） 17：15～17：45

開催趣旨：ブリは古来日本人に親しまれ，特に西日本の文化に深く根差してきた魚種の一つである。ブリの主産卵場は東シナ海陸棚縁辺部～九州南西沖とされ，天然稚魚の供給源に近い熊本・鹿児島・宮崎・大分の南九州4県ではブリ類稚魚生産量が全国シェア80%，ブリ養殖生産量が同57%と全国トップクラスであり，天然資源に依存したモジャコ漁業及び養殖業が盛んである。しかし近年，北日本における漁獲量の増加が海面水温の上昇と関連付けて報じられる一方，南九州4県における天然ブリ類漁獲量はシェア3%と低迷している。本研究集会では，ブリ資源研究の中でも特に資源変動，産卵回遊，稚魚の加入に関する最新の研究成果と，近年のブリ資源に対する漁業者の捉え方及び経営戦略について研究者・漁業関係者間で情報共有・意見交換すると共に，今後想定される環境変動とそれに伴うブリ資源の変動及び漁業の対応について展望し，今後必要となる研究の方向性について議論する。